



令和元年度 森林総合監理士育成(後期) ブロック研修の概要

1. 研修日程: 令和元年9月9日～9月12日
2. 研修会場: ホテルサン人吉(熊本県人吉市)
3. 現地実習: 人吉市大畑国有林74ち林小班外
4. 参加者: 20名(内訳) 県職員 11名
市町村職員 1名
林業事業体職員 1名
国有林職員 10名

研修目標

1. 森林総合管理士の果たすべき役割についての理解と意欲の醸成
2. 森林を科学的に評価する能力の習得
3. 循環的な本伐生産の戦略を書ける能力の習得
4. 森林・林業を地域の振興につなげるヴィジョンを構築できる能力の習得
5. プレゼンテーション能力、合意形成能力の習得

森林総合管理士の定義

森林・林業に関する専門的かつ高度な知識及び技術並びに現場経験を有し、長期的・広域的な視点に立って地域の森林づくりの全体像を示すとともに、市町村、地域の林業関係者等への技術的支援を的確に実施する者。

森林総合管理士の役割・活動内容

- ① 長期的、広域的な視点からの構想作成
- ② 公平・公正・中立的な立場からの合意形成
- ③ 具体的な取り組みを通じた構想実現



九州大学溝上先生による講義

森づくり構想演習 目標林型と施業方法の選択

現地踏査の様子



構想のとりまとめ発表の様子



循環利用構想演習

1,000haの団地を対象に間伐計画と林業専用道のルートを検討。
(机上演習)



現地踏査の様子

机上演習で林業専用道を検討した現地において、地形・地質及び水系の確認、周辺の土地利用における社会条件等を観察、確認し、現地調査の方法及びポイントを習得する。



発表・ディスカッション等の様子

現地実習で確認した林分内容等を検討し、集約的かつ効率的な森林整備の戦略を策定。
地域の将来ビジョンを描く構想力やプレゼンテーション能力を養う。

